

歩み編さんだより

令和5年6月

Vol.15

『和泊町の歩み』編さん事務局発行

『和泊町の歩み』執筆者

リレーメッセージ

たくましいエラブの近世人



和泊町歴史民俗資料館 いちちひろひと 伊地知裕仁氏

近世編執筆者

きんせい「近世」というのは、江戸時代にあたります。沖永良部島を含めた奄美諸島の近世は、1609年の薩摩藩りゅうきゅうしんこうの琉球侵攻から始まります。私の担当

する近世編では、琉球王国から薩摩藩の支配へと移り変わっていく様子を中心に描こうと思います。

近世になると、島の役人たちが記録した公文書などが膨大に作成されますが、残念なことに沖永良部島に残る近世期の史料は奄美の他島と比べて、とても少ないです。そのため、他島の史料も用いながら当時の沖永良部島について調べています。そうして見えてくるのは、過酷な支配や災害などにあ遭いながらも、現在までつながるエラブの農業や文化のいしづえ礎を築いた先人(うやほ)のたくましさです。

近世の沖永良部島といえば西郷さんですが、それだけではない様々な近世のできごとを、少しでも紹介できれば幸いです。



いよいよ執筆作業が大詰め「和泊町歩み編さん事業」

第7回編さん委員会で現状報告

令和5年6月12日（金）役場結いホール



第7回「和泊町の歩み編さん委員会」（皆村武一委員長）が6月12日（金）、役場結いホールで開かれました。今回は島外執筆者が4人来島したほか、4人がリモートで参加。島内執筆者を交えて各編ごとに現状報告を行い、課題点や事務局に対する要望なども共有しました。

今年度末の刊行を目指す「和泊町の歩み」は現在、執筆作業が大詰めを迎えており、執筆者と事務局との編集会議も着々と進んでいます。

執筆陣に加わりました！

ちからひでのり

主税英徳氏

琉球大学考古学研究室講師



新たに考古学分野の執筆陣に加わった主税先生は、琉大考古学研究室による後蘭孫八の城跡の測量調査に学生として4年間、携わりました。孫八の城跡の範囲や内部構造の把握・記録を目的とした測量調査で、正式な調査記録の公開は「和泊町の歩み」が初です。「自然石をうまく使った上に石積みを組んでおり、また平家の屋敷跡も近代遺産として面白い。グスクとしての特性・個性を少しでも分かりやすく伝えたい」と意気込みを語ります。「（エラブは）人がみな温かく、また宿泊先だった研修センターのごはんがとても美味しかった」と笑顔。「和泊町の歩み」での調査報告にご期待ください。

『和泊町の歩み』編さん室（事務局）

〒891-9112

大島郡和泊町和泊 591 番地

町立図書館 1階 郷土資料室内

TEL：0997-92-3690（役場内線750）

担当：木場浅葱（学芸員）先田光演（執筆編集員）

甲恵子（事務・編集）市來美穂（編集）



まーちもーり

歩み編さん事務局では古い写真や古文書等の資料を探しています。提供いただいた資料は複写した上で必ずお返ししますので、お心あたりの方はご一報を！事務局は町立図書館内です。いつでも、お気軽にお立ち寄りください。

